

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790900039		
法人名	一般社団法人ひまわりの家		
事業所名	認知症高齢者グループホームえすべらんさぁ(ユニット1)		
所在地	福島県相馬市北小泉字権現前56-1		
自己評価作成日	令和3年5月20日	評価結果市町村受理日	令和3年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの希望を聞き入れ、家庭的な環境で安心と満足が出来る支援を心掛けている。日中は共有スペースに集まり、テレビを見て談話・新聞の購読・トランプ等居心地の良い雰囲気作り心掛けています。出来るだけ家庭に近い環境で生活を送ることができ、笑い声の絶えないグループホームです。閑静な場所にあり季節感も味わえ、交通量も少なく夜間も静かに過ごすことが出来ています。利用者さんが明るく・楽しく・元気で過ごせるように、出来ることをいつまでも出来るように力を入れ、安心して過ごせるように支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和3年9月2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所は経験豊富な職員が多く、介護の質の向上に努めている。利用者の個別ケアに力を入れ、安心して生活できる支援に努めており、利用者の表情も明るく落ち着いた生活を楽しんでいる。
2. 協力医療機関の医師や歯科医師が往診しており、また、利用者が通院の際には職員が同行し利用者の状況を詳しく伝え、利用者の健康維持に努めており、家族の安心にもつながっている。
3. 看取りについては入居時に説明し、事前確認・終末ケアについて同意を得ている。重度化した場合は、医師・スタッフ・家族で話し合い、チームで連携して本人や家族の意向に沿って看取りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に職員が目につくところにおいてあり、その基本理念に基づいて意識を持ち、家庭的な環境で利用者に寄り添った支援を行っている。	事業所理念は、住み慣れた地域で「我が家」と思いながら自分らしく過ごせるように支援するとし、地域密着型サービス事業に即したものとなっている。理念は事務フロアに掲示し、「職員会議」等で周知を図りながら全職員が共有して毎日のサービスで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防の為、以前と変わらない生活が送れない状況であるので、外出・訪問等を最小限に抑えている。散髪等は近くの理容店に来所して頂き行っている。	これまで地域住民との交流を展開してきたが、現在はコロナ禍で休止している。また、同敷地内にある法人の他施設の利用者や子ども等とも交流していたが、現在はコロナ禍で制限を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の施設内での生活状況や認知症の説明、支援等を見て頂き理解を深めて頂いている。外出等の時も利用者さんに寄り添った支援を見て頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為、外部からの訪問を控え、施設内での状況を書面にて報告している。	設立以来、運営推進会議を年6回実施してきたが、現在は利用者や事業所の状況を書面報告で各委員に送付して、情報を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所での実情、不明点等に対しアドバイスや情報を教えて頂いている。	常時、事業所の現状を担当者に報告し、アドバイスを受けるなど意見交換をしている。現在は定期的に書面による会議を開催している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を必要としない状態に向けて、身体拘束廃止委員会を行い、議論し共通の意識を持ち支援に取り組んでいる。日中は玄関を自由に出入り出来るように施錠はしていない。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月ごとに開催し、課題を検討しユニット会議で報告している。また、職員は外部研修へ参加するとともに内容を報告し、職員全体で意識を共有している。日中は玄関の施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	週に1度の職員会議では勿論の事、職員の言動等に注意し、高齢者虐待防止対応における実務課題の共有・改善に関する資料を元に虐待のない介護に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している入居者がおり、権利を守る仕組みを(自立と尊厳)研修で学ぶ機会もあり、理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約又は改正等の際は、当ホームとしてのあり方を説明しご家族に納得して頂いている。不安、疑問などにも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の心・体調の変化を見逃さない様些細な事でも職員間で話を行い、上司に報告し職員会議で検討し支援に反映させている。ご家族訪問時には、意見・要望を確認して運営に反映させていたが、ただここ1年はコロナウイルス感染予防の為、ご家族訪問も控えて頂いていました。	コロナ禍で家族訪問を休止していたが、以前は家族の方に面会を促しており、その際に意見や要望を聞いていた。また、職員は、日常的に利用者の意見を聞き取ったり、表情や体調の変化を見逃さないように心がけて支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回の職員会議の中で、職員の意見や提案を聞き運営に反映させている。利用者の介護で随時気付いた事を職員間で共有しケアに反映させている。	管理者は、職員から日常のケアで利用者の行動から気づいたことや意見などを聞き取っており、ユニット会議で話し合い、事業所運営や日常のサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力、支援の仕方の助言等を行い入居者第一のケアが出来る様に指導を行い、勤務状況を把握している。職員各自が向上心を持って働ける体制作りを実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握し、外部研修へ参加できるように努め、介護人としてのスキルアップを図り、より良いケアが出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での交流会や勉強会等に積極的に参加し、資質向上に取り組んでいたが、コロナウイルス感染予防のため、交流を図れない状態である。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が情報を共有し、アセスメントを意識しながら、ケアが統一出来るように入居者とキーパーソンと会話しながら、本人の様子・要望することを聞く様心掛け、信頼関係を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの心配や要望等を伺い、来所時はどのような事を望んでいるのか等をご家族の話に耳を傾け、信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの話等を入念に聞き、アセスメントをしっかり行い、不安にならないように要望を聞き職員間で現状を話し合いながら、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来ることを見極め、一緒に新聞折りや洗濯物たたみの家事の一部にも参加して頂き、お互い協力しながら生活を送っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の心身の変化などご家族に報告し、状態の変化を把握して頂き共に改善策を考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者への来客があれば気軽に面会出来るように環境作りに努めている。行きたい所がある時は、要望に応えるように支援を行っていたが、感染症予防の為、面会・外出は控えて頂いている。	コロナ禍以前は利用者への来客や訪問も積極的に受け入れていたが、現在は家族のみに限定している。また、家族の協力を得て墓参り等への外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者の性格や特性を理解し、心身状態に応じて孤立することなく、職員が間に入り利用者同士関わりながら支えあえる様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した方でも、相談等には出来る範囲で支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別面談、アセスメントをしっかり行い、個人の特性に合わせて出来ることを続けていけるような目標を立て支援している。	担当職員が日常的に声かけしながら一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合には、家族からの情報や日常のケアにより本人の意向に沿うよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	支援関係者やご家族からの聞き取りを行うと共に、利用者の中で情報を得て、生活歴等を把握しその人の人物像が見えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者との会話の中で、日常の生活を見て出来ることを把握し、今後出来るかもしれない事を思案している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とご家族の要望や意見を聞きながら状況に合わせた介護計画を作成し、モニタリングやケース検討会も行っている。ただここ1年間はコロナウイルス感染予防の為、ご家族参加は難しかった。	利用者の身体の変化や行動の変化を観察し、サービス担当者会議で話し合い、現状に沿った介護計画を作成している。介護計画を変更する場合には家族に周知し、家族の意見を聞き取り、利用者が希望する生活ができるよう介護計画を見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に援助内容や留意すべき点などを記録し、職員間の連絡ノートや申し送りでも情報を共有し、統一されたケアを行い計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個々の様子等を観察をし、排便コントロールには牛乳オリゴ糖など使用したり、誤嚥防止の為にムース食等に変更したりして、安心して生活できるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政・地域の情報を把握しながら地域の行事には参加したいと思っておりますが、感染症予防の為参加できない状態である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望を聞いてかかりつけ医を確認している。受診は職員が同行しているが、感染症予防の為変化がなければ職員のみで対応し、職員会議で状態・医師への報告等を話し合い指示を仰いでいる。急変時には、電話、タブレットを使用し指示や往診を受ける関係を築いている。	利用者・家族の希望するかかりつけ医を受診しており、受診時は職員が同行し、通院が困難な場合は往診に切り替えている。家族には電話や面会時に結果を伝え、共有している。緊急時は、主治医に電話やタブレットを活用して相談している。週1回協力医療機関からの往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態・様子等を報告している。必要時には指示を仰ぎながら心身の衛生管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者へ情報提供を行い、出来るだけ面会に行っている。ご家族、病院と連絡を取り情報交換を行い早期退院出来るよう相談する等関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取り指針について説明と承諾を頂いている。重度化や終末期に近づいてきた場合でもご家族と細かく連絡を取り、意向を確認して医師と連携し支援している。	事業所では看取り指針・看取りについての事前確認書・終末ケアについての同意書を策定し、利用者及び家族に説明し同意を得ている。重度化した場合は、医師・スタッフ・家族で再確認を行い、看取りを希望する場合は医師から家族に説明し、チームで連携して意向に沿った看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法を身につけ素早い対応が出来る様になっている。緊急時にも連絡網を把握し、訓練も定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対策計画を作成してはああるも、コロナウイルス感染症の影響にて消防署員や運営推進会議出席の方々を巻き込んでの防災訓練は実施していない。ただ防災担当者から全職員に対し、対策計画書に目を通し避難誘導が出来るようにしている。	消防署立ち会いの総合訓練は年1回、自主訓練は年間を通して実施していたが、現在はコロナ禍のため実施できない。訓練時には隣接する同法人の障害者施設の職員と利用者も参加し、協力関係を築いている。緊急時の備品として非常食・タオル・什器品・ガスコンロ・懐中電灯・衛生用品等を備蓄している。	コロナ禍にあっても、対策計画書に目を通すだけでなく、災害を想定した訓練の実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを大切に、自己決定出来る支援をしている。利用者を人生の先輩と思い、入浴・排泄時の言葉遣いにも十分配慮し、表情にも注意して対応している。	職員は、利用者が主体的に物事を決定できるように自己決定を尊重した支援に取り組んでいる。また、入浴時や排せつ時の言葉遣いや職員間での会話においても利用者尊重の意識付けを図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話を大切に、思いや希望を伝えやすい雰囲気作りに努めている。日常会話の中から自己決定が出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の気持ちを尊重し、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え身だしなみはその人らしさが出せる様に支援している。外出困難な利用者には、理容師さんに来所して頂き、外出できる利用者には理美容室に行って頂く支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	利用者が食事の準備や後片づけの出来ることはして下さる。イベント等がある時は、利用者の食べたい物を聞き提供している。季節が感じられる献立、毎週水曜日昼はパン食、土曜日夕は刺身など取り入れ楽しめる様支援している。	献立表は職員が利用者の希望等を取り入れ策定し、行事食の提供やパンや麺などを取り入れ食事が楽しくなるよう支援している。また、利用者の体調に合わせおかゆや刻み食の提供もある。利用者は、職員と共に下ごしらえや簡単な片付け等をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分、食事量のチェックを行い個別に記録している。利用者の状態により、トロミやムース食等の工夫をし、食事量が少ない利用者には栄養調整食品などで支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者に合わせて口腔ケアを行い、義歯の利用者は夕食後洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の行動を観察し、自尊心を損なわないトイレでの排泄が出来る様に心掛けている。チェック表の記入により利用者の排泄パターンを把握し、自立にむけた支援をしている。	排泄チェック表や経過時間、利用者の様子から静かに声掛けし、トイレでの自立排泄を支援している。夜間もポータブルトイレを活用している。また、利用者の希望に応じて同性介助を行っている。便秘対策として適度な水分補給と乳酸食物の摂取にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として毎日の体操、長い廊下の歩行を行っている。食事やおやつに寒天、ヤクルトを提供し、便秘傾向の利用者には牛乳オリゴ糖を飲んで頂いている。排便チェック表で把握し、下剤の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後からになるが、利用者の希望を尊重しながら支援している。	利用者の意向に沿って入浴支援を行っている。入浴を拒否する利用者に対しては誘導時間や話題、担当者を変えながら誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の生活リズムに合わせ、好きな時間に居室で休息出来る様にしている。夜間も安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤された薬はファイルに綴じている為、職員は利用者の変化等があった場合は確認している。薬の変更時も連絡ノート等で職員全員が情報の共有を行い、誤薬がない様トリプルチェックで確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器拭き、新聞折りなど家事仕事の役割分担で、利用者が出来る事したいことをして頂いている。希望を聞いて気分転換等の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染防止の為、利用者の外出は控えている。	コロナ禍前は、利用者の希望に沿って散歩や買い物、ドライブ等の外出支援を行っていた。医療施設等へは介護タクシーを利用している。現在は、感染予防のため控えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が商品を選んで買いものがしたいと希望がある時は、職員と一緒に行き支払いをする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者には希望があれば、ご家族等に自由に電話したり、手紙・荷物のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にいるようにのんびりと過ごして頂いている。体調が崩れないよう室温調整を行い、花など飾り季節感がわかるようにしている。	各室が共用空間に向かって配置されている。居室に籠ることなく、自由に共用空間に出て職員や他利用者と交流できるようにしている。また、今や食堂は明るく居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ利用者が過ごしやすい様に支援をしている。利用者の性格等を考慮し席を設けたり、コミュニケーションが図れる様工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	自宅で使用していた家具等を持って来て頂いて、家族と協力しながら配置をし安心して過ごせるようにしている。居室入り口は、中が見えない様カーテンでプライバシーを守っている。	居室は、換気扇・介護ベッド等が備えられている。利用者は、小箆箆・テレビ・仏壇・神棚等を持ち込み、居心地よく落ち着いて過ごせるようレイアウトしている。居室は、共用フロアに向かって配置され、各出入り口はカーテンで部屋をのぞけないようにする等、プライバシーの配慮もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、共有スペースからは台所やトイレなどが見える配置になっているため、利用者は自ら配膳の準備など手伝いに来て下さる。		